

令和6年 第9回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 令和6年9月26日(木)

開会 13時30分

閉会 14時05分

2 会 場 金沢市役所 第二本庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員(6名)

教 育 長 野 口 弘

教 育 委 員 田 邊 俊 治

〃 大 島 淳 光

〃 木 村 陽 子

〃 長 澤 裕 子

〃 櫻 吉 啓 介

4 欠席委員(1名)

教 育 委 員 丸 山 章 子

事務局	教育次長	堀 場 喜一郎
	担当次長(兼)教育総務課長	前 多 洋 一
	教育総務課長補佐	内 山 善 之
	担当次長(兼)学校職員課長	地 下 雅 志
	学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐	外 川 奨
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	小 川 隆 庸
	学校指導課主席指導主事	古 川 雄 次
	市立工業高校事務局長	今 井 信 也
	担当次長(兼)生涯学習課長	村 田 昌 人
	図書館総務課長(兼)玉川図書館長	岩 崎 友 代
	教育プラザ総括施設長	熊 谷 有 紀 子
	(兼)学校教育センター所長	
	(兼)特別支援教育サポートセンター所長	

5 案 件

報告第13号 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 金沢の開催について

(学校職員課)

非 報告第14号 令和6年度金沢市教員採用候補者選考試験(金沢市立工業高等学校教員)
の結果について (学校職員課)

報告第15号 令和6年度全国学力・学習状況調査及び石川県基礎学力調査の結果につ
いて (学校指導課)

そ の 他

(1) 令和6年度金沢市立小・中学校卒業式日程について

(2) 金沢市立工業高等学校の活動状況について(令和6年4月~8月)

(3) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議挨拶に続いて、傍聴希望者1名について協議し、傍聴を許可した。次に、会議録署名委員に長澤委員を指名した。本日の議題について、野口教育長が報告第14号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、報告第13号、報告第15号、その他(1)(2)(3)について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、10月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。最後に報告第14号について非公開で審議に入り、原案どおり承認し、閉会した。

* 10月の定例会議の日程：令和6年10月16日(水) 13:30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 報告第13号 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 金沢の開催について(学校職員課)

(説明の概要) 議案書2ページ。コミュニティ・スクールの取り組みをより一層周知し、市民の理解を深める契機とするため、全国コミュニティ・スクール連絡協議会及び文部科学省と共に、13回目となる研究大会を本市において開催する。

研究大会の開催日時は令和6年11月8日(金) 10時～16時15分、会場は金沢市文化ホール、主催は全国コミュニティ・スクール連絡協議会、文部科学省、金沢市教育委員会である。参加者は、全国コミュニティ・スクール連絡協議会員、学校運営協議会委員、学校管理職・教職員など、コミュニティ・スクールに関わる方々で、定員は800人、参加は無料である。

来週、文部科学省から全国の教育委員会へ、また全国コミュニティ・スクール連絡協議会が関係するコミュニティ・スクール関係者等へ、大会プログラムや申込方法を明記した案内を送信する。これに合わせて本市においても、金沢市立小中高等学校に案内チラシを配布する予定である。全国のコミュニティ・スクールに関わる方々のほか、学校を支える地域関係者や団体等にも教育委員会や学校を通じて周知される予定である。本市においては、既に各学校に対し、学校管理職や学校運営協議会委員等の参加をお願いしている。

研究大会では、午前にパネルディスカッション、午後に分科会を予定している。パネルディスカッションでは、「持続可能な社会の創り手の育成に資するコミュニティ・スクール」をテーマに、文部科学省関係者、地方教育行政関係者、大学関係者、地域づくり実践者等の方々に意見を交わす。分科会では、「持続発展、教育課程」「働き方改革、学校安全・防災」「地域づくり、社会教育」の三つのテーマに分かれ、本市では中村町小学校、長町中学校、大浦小学校、金石中学校などがそれぞれの分科会で発表を予定している。

本市のコミュニティ・スクールの取り組みを広く周知する機会になるとともに、他都市の先進的な取り組みに触れる機会でもあるので、参加者にとって有意義な会となるよう、しっかりと準備を進めたい。

野口教育長

本市では全ての市立小中学校がコミュニティ・スクールに参加していますが、県内自治体での、コミュニティ・スクールの参加状況はどのようになっていますか。

地下学校職員課長

コミュニティ・スクールの導入率について、令和5年5月1日現在のデータでは、石川県の小、中、義務教育学校の範囲内で57.5%となっております。ちなみに全国については58.3%、金沢市についてはご存じ

のとおり100%です。

野口教育長

パーセンテージでは57%、58%という数字が出てきました。県単位で見たときには、参加しているところ、参加していないところもある県があるということですね。すべての小中学校が参加している県もあるかもしれませんが、県内ではいかがでしょうか。

地下学校職員課長

県内19市町の中で、100%というところが6市、一部の学校が参加しているところが3市町、まだ導入されていないところが10市町です。昨年5月1日現在のデータであり、そこからどんどん増えていますので、現状とはずれがあるかもしれません。

野口教育長

大会での案内用チラシ等がこれからできてくると思うので、まだ設立に至っていない市町にもぜひ送付して、お声がけいただければと思います。

○ 報告第15号 令和6年度全国学力・学習状況調査及び石川県基礎学力調査の結果について (学校指導課)

(説明の概要) 議案書7ページ。全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒を対象に4月18日に行われた。教科に関する調査は、国語、算数・数学が実施された。

各教科の平均正答率は資料に記載のとおり。国との比較では、小学校、中学校の全ての実施教科で4～6ポイント上回る結果となっている。石川県との比較では、小学校6年生の国語、算数では同じであり、中学校3年生の国語では1ポイント、数学では2ポイント上回る結果であり、おおむね良好な状況と捉えている。

一方、正答率が低かった設問は、小学校では算数の道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その時速を言葉や数を用い記述する設問であり、中学校では数学の事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する設問であり、どちらも思考、判断、表現の観点の設問であった。

質問調査の結果概要には、児童生徒質問の中から「学習指導に関する質問」「ICT機器の活用に関する質問」「英語に関する質問」「幸福感や地域との関わり等に関する質問」について、特に本市の現行の金沢型学校教育モデルにおいて重点的に取り組んできた質問や、明年度から始まる新金沢型学校教育モデルに関連する質問などについて抜粋している。

「学習指導に関する質問」については、1の「課題の解決に向けた主体的な学び」や2の「学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動」の質問において、金沢型学習スタイルの導入や終末段階の指導の成果が表れている。

「ICT機器の活用に関する質問」については、全国と比較すると大きく上回っている質問が多く、各学校で端末を積極的かつ効果的に活用した実践が進められていることが分かる。

「英語に関する質問」については、小学校では「英語の授業の内容がよく分かる」の質問において、中学校では「自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動や発表する活動」の質問において、肯定的回答が全国平均を大きく上回っており、小中一貫英語教育における指導の充実の成果と捉えている。

「幸福感や地域との関わり等に関する質問」については、「友達関係に満足している」という質問において、小中学校ともに肯定的回答が9割を超えており、良好な状況であると捉えている。

議案書10ページ。石川県基礎学力調査は、小学校第4学年、第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象に4月17日に行われた。

各教科の平均正答率は抽出学級の数値である。各教科の平均正答率は、石川県と比較して、小学校4年生の国語は同じ、小学校4年生の算数、小学校6年生の社会、理科は1ポイント下回り、小学校6年生の英語は1ポイント上回っていた。また、中学校3年生の理科、英語は1ポイント

上回り、中学校3年生の社会は2ポイント上回る結果であり、おおむね良好な状況と捉えている。

これらの調査結果を生かし、2学期以降、重点的に行う取り組みを具体化するなど、各学校の実情に即した改善策を立て、これらを実践するよう学校訪問等を通じて指導していく。なお、全国学力・学習状況調査の詳細やその他の設問の結果については、例年どおり、10月中旬を目途に皆さんにお届けする予定である。

長澤委員

8ページの「質問調査の結果概要」についてお伺いしたいと思います。全国と比べて全てプラスになっていて、とても充実した教育現場であることがうかがえて大変うれしく思いますが、前年から比較してどれくらい増えているのか、減っているのかというデータはありますか。

古川学校指導課主席指導主事

例えば、「ICT機器に関する質問」の(2)の1「ICT機器をどの程度使用していますか」のところで、週3回以上活用している割合が出ています。これは直近3年で見ますと、小学校は63ポイントぐらいで横ばい、中学校は年々5ポイントずつ増えている状況です。発達段階や教科の特性により、小中学校で差が生じていると捉えています。小中学校ともに活用している学校は多いですが、学校によって差があるため、令和8年度までに全ての学校で毎日活用されるよう、われわれとしては、あらゆる機会を使って指導しているところです。

田邊委員

全国学力・学習状況調査について、結果はおおむね良好という一方で、算数や数学での課題について指摘がありました。同時に調査のあった質問事項でもおおむね良好な結果という指摘がありましたが、質問事項への回答からは何か課題となるようなことはあったのでしょうか。

古川学校指導課主席指導主事

例年のことだと思いますが、自己肯定感に関する設問や、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問については、課題があると捉えています。

田邊委員

取り上げて説明いただいたのは児童生徒への質問事項ですが、学校に対しても別途の質問が行われています。この学校に対する質問の中からは、良好な状況だとか、その一方で課題があるだとか、何か注目できる点はあったのでしょうか。

古川学校指導課主席指導主事

学校質問の中で、例えば「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や、各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して、改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」については、小中学校とも100%の回答になっていて、例年高い状況にあります。

課題につきましては、小中それぞれにプラスとマイナスが混在しており、まとめて話づらい状況ではあるのですが、例えば小学校で課題を一つ挙げるとしますと、「今までの取り組みをそのまま踏襲するのではなく、新しい取り組みを導入したり提案したりする教職員が多いと思いますか」という設問については、全国と比べると低い状況にあります。中学校につきましては、「調査対象学年の生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを、学級での話し合いを生かして一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか」という設問については、全国より若干課題があると思っています。

田邊委員

また詳細な分析結果について注目してみたいと思います。

野口教育長

違うところの内容については、今後ご報告があるということによろしいですね。

古川学校指導課主
席指導主事

はい。

○ その他（１） 令和６年度金沢市立小・中学校卒業式日程について（学校指導課）

（説明の概要）議案書１２ページ。卒業式の日程の設定に当たり、例年、中学校は、公立高等学校の入試後、授業日を２日間確保することを基本として決めている。小学校は、中学校の卒業式実施後２日連続で実施することを基本として決めている。この考え方にに基づき、今年度、中学校については、高等学校の入学試験が３月１１日（火）・１２日（水）に設定されているため、その後２日間を確保して３月１５日（土）午前に設定した。これに伴い、小学校の卒業式は、３月１７日（月）・１８日（火）の午前と午後に設定した。なお、三谷小学校については、今年度閉校ということもあり、３月１５日（土）午後に設定した。

（特になし）

○ その他（２） 金沢市立工業高等学校の活動状況について（令和６年４月～８月）（市立工業高校事務局）

（説明の概要）議案書１４ページ。一つ目は、全国工業高等学校長協会が夏休み中に開催する高校生ものづくりコンテストの結果である。市立工業高校からは五つの部門に参加し、資料に記載のとおり成績を収め、三つの部門で北信越大会に出場した。中でも建築科の木材加工部門においては北信越大会で優勝し、電気科の電気工事部門においても北信越大会で２位に当たる優秀賞の成績を収め、それぞれ全国大会へ出場することとなった。電気工事部門において、県内の高校生が２位以上の成績となるのは初めてである。

二つ目は、資格取得状況である。８月までに延べ３３０名が資格を取得している。この中には、全国工業高等学校長協会主催のジュニアマイスター顕彰制度において高得点を収め、シルバーの称号を認定された生徒が１名いる。

三つ目は、部活動・課題研究の結果である。県大会や北信越大会における上位３位以上の成績と全国大会の結果を記載している。文化部では、国際的なロボットコンテストであるWRO 2024 J a p a n 石川予選会エキスパート競技において３位の成績を収め、全国大会への出場を果たしたほか、吹奏楽部が石川県吹奏楽コンクールで金賞を受賞している。運動部では、WORLD AQUATICS男子U18水球世界選手権において２名が選抜されたほか、相撲、水球、剣道、自転車、バドミントン、新体操、弓道、陸上の８競技が全国大会への出場を果たした。相撲においては団体戦３位入賞の成績を収めている。

四つ目は、先般実施した中学生体験入学についてである。金沢市を中心として５４の中学校から計４０６名の中学生が参加し、ロボット操作や小屋づくり、測量機器による宝探しなど、各科の特徴を生かしたさまざまな取り組みを全ての参加者が体験した。アンケート結果によると、「体験入学に参加して良かった」という肯定的な回答が９割以上にのぼる。なお、体験入学とは別に、９月２３日に学校説明会と部活動体験を開催した。

五つ目は、９月以降の主な活動予定である。９月１６日に民間企業の就職試験が開始された。また、１０月以降、本校の文化祭である金工祭、吹奏楽部定期演奏会、公開課題研究発表会などを開催する予定である。生徒がさまざまな場面で活躍できるよう学校を挙げて取り組んでおり、引き続きご支援のほどよろしく願います。

櫻吉委員

たくさんの素晴らしい成績が収められていると思いますが、ジュニアマイスターとはどういうものか、具体的に教えていただけますか。

今井市工高事務局

ジュニアマイスター顕彰制度は、全国の工業を学ぶ学生が目的を持って

長	意欲的に学習に取り組むことを目的とし、全国工業高等学校長協会が制定している制度です。工業に関するさまざまな資格や検定等とその難易度に応じて点数化し、その蓄積によって認定を行うものです。点数に応じて上からゴールド、シルバー、ブロンズという階級があり、今回のシルバーは上から2番目の階級となります。
櫻吉委員	ということは、一人の子がたくさん検定を受けて賞をもらっているということですか。
今井市工高事務局 長	おっしゃるとおりです。取得が難しい資格については点数が高くなるため、一つの資格でゴールドやシルバーになることもあります。今回の場合は一人の学生が複数の資格を取得し、その積み重ねによりシルバーと認定されています。
木村委員	中学生体験入学について、もう少し詳しく教えてください。将来入ってきてくれる人たちへの宣伝ではないですが、そのような内容なのでしょうか。
今井市工高事務局 長	おっしゃるとおりです。今年は金沢市だけではなく、県内の広い地域、能登からの生徒も含めて406名の生徒が参加しました。細かな統計はありませんが、これに参加した生徒は、かなりの割合でその後、本校を受験し、実際に入学しています。内容についても毎年手を加えており、先ほど申し上げたロボット操作や小屋づくりなど、本校の各学科が工夫を凝らし、それぞれの特色を生かした授業を皆さんに体験してもらいます。開催時間をずらして、参加した全ての生徒に全ての学科の体験をしてもらっており、参加者とその保護者、引率の先生方からは、いつも「大変有意義な取り組みである」との言葉を頂いています。
木村委員	市立工業高校の特色を発揮していただければと有意義だと思います。

以 上

会 議 録 署 名

教 育 長 _____ 署 名 _____

教 育 委 員 _____ 署 名 _____

(長澤委員)

[非公開議案の審議結果について]

○ 報告第14号 令和6年度金沢市教員採用候補者選考試験（金沢市立工業高等学校教員）の結果について（学校職員課）

審議結果についても非公開

以 上